

# 身近な危険から子供を守ろう

家庭の中に潜む**危険**を把握して、子供を不慮の事故から守りましょう。

## ●誤飲・誤嚥

小さな子供は物を口に入れる特性があり、間違ってそのまま飲み込んでしまうことがあります。3歳の子供が口を開けた時の大きさは**約4cm**と言われていて**トイレトペーパーの芯**とだいたい同じです。トイレトペーパーの芯を通り抜けるようなものは手の届かないところに置かなど注意しましょう。

特に、タバコ・ボタン電池・洗剤・薬などは体に害となる可能性があり注意が必要です。



### ☆間違っで飲み込んでしまったら

・窒息している	➡	背中を叩き吐き出させる
・窒息し、意識を失ってしまった	➡	救急要請し、胸骨圧迫を開始する
・洗剤、タバコ等を飲んでしまった	➡	早期に医療機関を受診する

## ●やけど

子供は大人に比べて皮膚自体が薄いため**重症**になりやすいです。高温なものの近くで子供が遊ぶことがないように注意しましょう。



### ☆やけどしてしまった

・手足など一部のやけど

水道水を流したまま洗面器やバケツに水を張りやけどした部分を浸して**冷やして**ください。水ぶくれは**破らない**ようにしましょう。

・広範囲なやけど

広範囲なやけどの冷却にも、水道水を使用しましょう。**全身のふるえが見られる程**の過度な冷却は**低体温の危険がある**ため避けてください。この場合も水ぶくれは**破らない**よう注意しましょう。

## ●水の事故

小さな子供は体に比べて頭が重いため、水面を覗き込んでいただけでも簡単に水中に転落することがあります。子供は水深10cmでも溺れる危険性があるため、子供から目を離さないようにしましょう。

また、海や河川、プールで遊ぶ際は、ライフジャケットや浮き輪等を使用しましょう。



## ●転落

動き回れるようになると、一層周りの危険が多くなります。足腰が十分に発達していないため、小さな段差や物につまずいて怪我をすることがあります。ベビーベッドから転落する、階段で足を滑らせ転落する、バルコニーで柵を乗り越えて墜落することも考えられます。バルコニーには足場になるものがないかチェックしてみましょう。



今回紹介した家庭内の危険箇所は一部にすぎません。  
ご家庭の皆さんで確認し、危険を減らして子供の成長を見守りましょう。